

No.68 2009.7 DAIDO CAMPUS

02 宴祭(大学祭) / 04 NEWS / 06 学生の勇姿 / 08 トコトン先生大活躍! / 09 新刊書出版 / 11 cafe 9 / 13 新刊書出版
14 就職トピックス / 15 新任教員紹介 / 15 新刊書出版 / 16 創立70周年記念講演 / 16 大同大学応援歌誕生、披露 / 16 人事



写真提供：アルバム委員会

宴祭 (大学祭)

県内最大級の模擬店敷

DUP

Daido☆Times

6月号

編集・発行◆大同大学DUP研究会 〒457-8530 名古屋市区滝春町10番地3 <http://dup.shinku.net> mail@dup.shinku.net

第44回宴祭華やかに



宴祭も終盤を迎え、盛り上がりは最高潮に=31日、滝春グラウンドで(山口雅生撮影)

「大同大学」校名変更後初の開催

新型インフル、天候影響なし

5月30日から31日にかけて、大同大学滝春校舎と滝春グラウンドにて第44回宴祭が開催された。新型インフルエンザや天候などが心配されたが、模擬店敷は県内最大級と、昨年と同様の盛り上がりを見せた。

今回は「大同大学」として初めての大学祭だった。開催直前までぐずついた天気だったが、開始直後には雲は少なくなり、昼前には青空がひろがっていた。当日は新型インフルエンザの流行が懸念されていたが、何事もなく開催の日程に

影響を与えることはなかった。当日は午前11時から午後4時までの5時間という短い時間だったが、大学祭実行委員会の委員らがあちこちで援助している姿が見られた。

2日目は明け方まで降った雨が、開催時刻までには止み、雲の切れ目から太陽の光がのぞいた。しかし、朝方の雨の影響で一部催しの開始時刻が遅れてしまうといったトラブルに見舞われた。



天候も回復し、会場を埋めた参加者=滝春校舎で

正午に近づくにつれ、来客者数が増加し、各々の店舗からは客寄せの威勢のいい声が聞こえてきた。それぞれの店では看板や衣装など様々な工夫を凝らしていたところから、各団体の大学祭にかける情熱が伝わってきた。ステージでは実行委員会主催の企画で常に人が絶えず、地域の人や他校との交流もみられた。

西野カナさんら熱唱

後夜祭は2日目の午後5時から午後8時まで滝春グラウンドで開催された。ゲストは西野カナ(20)とSCANDALだった。西野カナさんは三重県出身で現役大学生であり、世界各国で活動している有名アーティストでもある。

後夜祭の見所はやはりキャンプファイヤーと火縄だった。これは実行委員の努力の甲斐あって、観客からは大好評だった。

今回の第44回宴祭は祭りに参加してくれた大同生だけでなく、この学祭を支えてくださった皆さんのおかげで何事も無く、すごい盛り上がりを見せ、参加者はもちろんキャストのみんなも楽しめた。



西野カナさんのステージ

「学生による大学新聞」発行、一歩前進。

以前あった「新聞会」を復活させたいと、2009年4月、「DUP研究会(新聞研究会)」が誕生しました。文章を書く、写真を撮ることが好きなメンバー5人が集結。

DUPは「Daido☆Times」の自主発行を目指しつつ、本誌とコラボレイトしていきます。

DUPの付いた記事は提供のあった記事です。極力そのまま掲載していきます。

どうぞ、DUPをよろしくお願いたします。

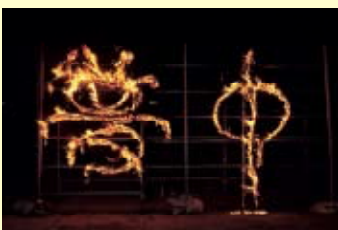
DUPメンバー／山口雅生(建築学科 建築学専攻1年)・杉本一馬(情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻1年)
長谷部三彩子(建築学科 建築学専攻1年)・船場彩華(建築学科 建築学専攻1年)
平岩和也(機械工学科 機械工学専攻1年)

DUP

写真で見る宴祭&あとがき

なお、本紙はウェブサイトをダウンロードして読むことができます。手順等についてはサイトをご確認ください。

長いようで短かった宴祭ですが、我々DUP研究会では、その2日間で数百枚もの写真を撮影することができました。売り子さんや、一般の参加者。そして学生や職員の方々。私たちは先月発足したばかりの「研究会」ですが、写真を通して読者の方々に興奮や感動をお伝えできれば幸いです。まだまだ未熟な点は多々ありますが、これからよろしくお願いたします。



後夜祭で点火された火縄①
メイドの格好をした売り子さん②
馬を占っているメイドさん③



宴祭1日目の夜に行われた懇親会であいさつをする澤岡学長=写真②と、集合写真=写真③



DUP研究会です

我々DUPの部員は男子3人、女子2人の合計5人、一年生のみで構成されています。ほぼ未経験者のため、まだまだ改正の余地が目立ちます。活動日は週3日の月、火、金で場所については日によって様々。活動内容のほとんどは話し合いをして、よりよい記事にしようとしています。ただし、部としては人材が不足しているのが難点です。部長の山口雅生は個人的なことですが、写真を撮りたくてこの部を立ち上げたそうです。

目指すは、月一回の新聞発行。…ですが当面は、『DAIDO CAMPUS』に記事提供を行い、より多くの方にDUPを知ってもらおうことです。そして、新入部員を集めること。一年生のみなので、興味がある方は部長の山口までお願いします。未経験者ばかりなので気負いせず声をかけてください。



NEWS

■機械工学科

井上孝司研究室・萩野将広さん(大学院 機械工学専攻2年)

国際学会「9th international Conference on Progress of Machining Technology」で発表



4月25日(土)～29日(水)、中国昆明市で「9th international Conference on Progress of Machining Technology」の国際学会が開催されました。この会議には中国、韓国、台湾、日本、オーストラリア、シンガポール、USA、英国、タイなどから200人を超える参加者がありました。

この学会で萩野さんが「Cutting

Characteristics of CFRP Materials with End Milling」と題して開催日の午後からのセッションで3番目に講演発表しました。

この研究テーマは彼の修士論文の一部です。またこの講演論文は審査論文として受理され、Key Engineering Materials の Progress of Machining Technology に Trans Tech Publications Ltd (Switzerland) より Journal として出版されました。

堀 美知郎研究室

名古屋聾学校で燃料電池製作体験

6月16日(火)、県立名古屋聾学校で「燃料電池製作体験」が行われた。今年度で3年目となる県下高校生対象の「燃料電池製作体験」。講師は、おなじみの堀教授と長谷川研究員(産学連携共同研究センター)が務めた。

聾学校での実施にあたり、講師はゆっくり大きく口を動かしながら話し(読唇)、さらに隣で教員が手話を用いて生徒に伝えるというスタイルで実施。また、「触媒」や「電解質膜」などの専門用語には補足説明を挟みながら講義を進めた。60人もの生徒は熱心にスライドに食い入り、燃料電池を組み立てていた。

燃料電池の電圧は1セルにつき、理論的には常温で1.2Vと言われているが、各部材が持つ抵抗により、実際は0.8V程度出れば良いとき



れている。今回、生徒が製作した燃料電池の発電実験では、なんと軒並み0.9V以上を記録。発電の証である小型プロペラが勢い良く回った瞬間、会場全体が笑顔と拍手喝采で包まれた。

博士後期課程修了

平成21年3月、本学から課程博士が3人、誕生しました。おめでとうございます。



佐伯茂雄

論文題目 「広域地盤変動調査と地下水管理に関する研究」



村井映介

論文題目 「アルミニウム合金の冷間前後方組合せ押し鍛造に関する研究」



山田 宰

論文題目 「はり崩壊型の鋼製門形ラーメンの弾塑性地震応答性状に関する研究」

■建築学科

建築設計I / インテリアデザイン設計I 「D-learning」始動。



建築学科の授業で「D-learning」が始動。D-learningとは、「街の課題を授業の課題」とし、「依頼人の前でプレゼンテーション」する授業方式のこと。

今年もこのスタイルで、地域(南区)に課題を募集したところ、応募あり。今回の課題は、「一般住宅の設計」だ。

6月11日(木)、白水キャンパス4401講義室で、建築学科2年生と課題の依頼人が向き合った。地域の方が授業に参加することは、珍しい。異様な空気の中、授業はスタート。依頼人が設計条件を話し始める。「昭和42年竣工の

木造2階建て、専用住宅を建て替える計画。生まれ育った愛着ある建物であるが、築40年以上経過し、老朽化に加え、十分な耐震性および防火性を有していないため、建て替えを決意した。計画地、敷地面積、家族構成は…」。依頼人は、背景・条

件・必要部屋・要望など、こと細かに説明する。それもそのはず、本物の依頼人だから。このテンションに学生のモチベーションも向上、手を挙げ質問を繰り返す。

次に講義室を飛び出し、大型バスで計画地へ。カメラを片手に家と家の狭い通路や、となりアパートの2階に上がって現場をみる学生たち。その表情は真剣、そして楽しそう。

7月30日(木)に予定されている、依頼人へのプレゼンテーション(タイトルおよび設計趣旨・配置図1 / 100または1 / 200・



各階平面図1 / 50・内観パース・全面道路を含めた模型1 / 50など)。どれだけ盛り上がるのか、本当に楽しみだ。



■情報学科

川戸和英研究室

恒例のメディア見学会 NHK名古屋放送局見学

5月19日(火)、川戸研のゼミ生15人が、栄のNHKを訪れ、同局広報の松坂氏の案内・コーディネートで、まずは、ニュース放送がどうなされるかを見学した。報道局フロアでのニュース検討会の模様、ニュース放送コントロールシステム、そして報道スタジオでは、NHK名古屋平日夕方放送のホットイブニング キャスターの二人、村竹勝司さん・櫻木瑤子さんが加わった記念撮影も。その後番組制作スタジオ、IT制作ルームを見学したあと、名古屋放送局制作の「めざせ! 会社の星」について、ディレクターはじめ同局スタッフと意見交換。学生たちからの確

で参考になる指摘がたくさんあったと、プロデューサーが感想を漏らしていた。



中日新聞社見学

6月16日(火)、今度は三の丸の中日新聞社を見学させてもらった。輪転機が並ぶ印刷工場では、1時間に15万部のスピードで印刷され、送付先へ自動選別されるラインを見学。そのあと、取材、編集、整理といった紙面づくりのプロセスを紹介してもらい、新聞社の取材網が我々の想像がつかないくらい

の広さと深さを持つことに皆、認識を新たにした。最後の懇談会では、学生たちから「新聞の購読率の低下をどう食い止めようとされているか」など鋭い質問に、案内していただいた担当さんは、「いい方法を教えてください」と学生に逆質問するほど、内容の濃い見学となった。





ロボット研究部

大竹章司君 (ロボティクス学科3年)

第15回 ROBO-ONEで近藤科学賞を受賞

5月4日(月)に川崎市産業振興会館で開催された2足歩行ロボット競技会「第15回 ROBO-ONE」にロボット研究部が出場した。

今回のROBO-ONEは、認定大会で決勝出場権を得たロボット等の決勝トーナメントで、まさに2足歩行ロボットのオリンピック。その中で、大竹君のロボット「ダイガック」は、37台による1回戦を2度戦い、韓国科学技術大学と電気通信大学にノーダウンの圧倒的な勝利。2回戦の新しいルール「投げ技」限定の戦いには敗れたものの、結果はベスト16。俊敏な動作を評価され「近藤科学賞」を受賞した。おめでとう！



写真左がダイガック

賞	賞金	Machine Name
優勝	金100万円	Si-Ma
準優勝	金20万円	Autimo 03
第3位	金10万円	rev3

賞別・総得点順位	賞品	機名/ロボット
パンダイ賞	ネットタンサーフェス	エタセリオン
サンライズ賞	賞金、金10万円	レトロ
近藤科学賞	MX-302R	ダイガック
デジタルリンク賞	USBメモリ16GB	デジモット
汎用PC賞	RGB50	サイコログレート
CG言語でプログラムし賞	Beaulto Chaser	サイコログレート
高貴顕彰委員会賞	ロボット人形飾り	ジュルナス ゴーギル
セサコートテクノロジー賞	超フリーハンダ対応ハンダごてセット	Neutro

<http://www.robo-one.com/> の掲載記事から

松原広司君 (ロボティクス学科4年)
小出真澄君 (ロボティクス学科3年)
OB 青木康宏さん (H20.3 大学院修了)

「ロボファイト9」SRC (小型機) 部門でW優勝



松原君(右から4人目)、小出君(右から3人目)

「ロボカップジャパンオープン2009大阪」と同時開催された2足歩行ロボット全国大会の「ロボファイト9」。初日はエキシビションが行われ、2日目はSRC (小型機/市販機) 部門、最終日はORC (大型機) 部門が実施された。

SRC部門は、ロボットの重量で2クラスに分けられており、1.8kg以下級と、1.8kg超級となる。本学から7機が出場したSRC1.8kg以下級の総エントリー数は33機。試合はトーナメント式で行われ、競技会初参加となる松原君のロボット「たーたーさん」が見事優勝した。また、SRC1.8kg超級には本学から3機が出場し、小出君のロボット「花蓮式」が決勝進出。1分足らずで一気に決着をつけ、こちらも優勝！ロボット研究部としては、1.8kg以下級とあわせ両級制覇となった。これは昨年11月の「ロボファイト8」における大竹章司君 (ロボティクス学科3年) のSRC部門優勝に続く大快挙。

さらにORC (大型機) 部門では、ロボット研究部OBの青木さんが3位に入賞した。おめでとう！

本学ロボット研究部の強さの秘密を西堀賢司教授 (ロボティクス学科) は、「ロボット工房の“ものづくり環境” およびロボット機体数 (20数台) と練習量の豊富さにあると思う。」と話された。

「ロボカップジャパンオープン2009大阪」で5位入賞

5月8日(金)～10日(日)に京セラドーム大阪で開催された「ロボカップジャパンオープン2009大阪」にロボット研究部が出場。縦横50cm未満のロボットが5台でチームを構成し、18m×12mのフィールドで試合を行う「中型ロボットリーグ」で、5位に入賞した。試合時間は10分ハーフで、ロボットは自律移動する。ロボット研究部は、大きなフィールドに対処するため、ロボットをほぼ全面改良した新型 (3輪駆動式) の開発を進めてきた。しかし、ハードウェアの量産化が遅れ、ソフトウェアの動作確認が十分行えなかったこともあり、



結果は2ゴールの得点のみで第5位となった。また、2足歩行ロボットが3対3でサッカーの試合を行う「ロボカップヒューマノイドリーグ Kidサイズ」のテクニカルチャレンジ部門では、予選落ち (2敗) となってしまったが、2年目の挑戦で、ロボット研究部の2足歩行ロボットのモーション作りが優秀であることが証明されるなど、今大会の参加は有意義なものであった。



硬式野球部

4部昇格、おめでとう！

4月4日(土)に開幕した愛知大学野球春季リーグ5部リーグを勝ち抜き、迎えた6月6日(土)・7日(日)の4・5部入替戦 (本学元浜野球場)。名古屋市立大に2勝し、本学は4部昇格を果たした。第1回戦は1年生投手 中西真茂君 (建築学科 建築専攻1年) の完投 (被安打4) による活躍で、9対1と快勝。2回戦は、エースの不調で3回5対0と先取されるが、その裏1点を返し、さらに4回相手のミスにより3点獲得、しかし、即座に2点返され、7対4となる。そ

の後本学は、6回3点を返し同点。8回の裏、2年生樋口剛志君 (建築学科 インテリアデザイン専攻2年) のタイムリーで逆転、さらに1点を加え、9対7となる。最終回名古屋市立大に1点を入れられるが、逃げ切り勝利をつかんだ。

この試合、たくさんの卒業生・ご父母様が応援に参加、特に4部昇格を果たせなかった卒業生は、わがことのように喜び、現役生の活躍に感動していた。



「たーたーさん」



「花蓮式」



ダンス部

岩田宗也君 (ロボティクス学科2年)

お見事、総合優勝!

5月10日(日)、名古屋市公会堂で行われた、「第29回中部日本学生競技ダンスラテン選手権大会 新人戦の部」で、岩田宗也君(ロボティクス学科2年)・大嶋英里衣さん(金城大)のペアが2位に輝いた。

また、6月21日(日)、一宮スポーツ文化センターで行われた「第45回中部日本学生競技ダンス選手権大会 種目別戦 新人戦の部」では、タンゴの部1位、スローフォックストロットの部2位となり、見事総合優勝を成し遂げた。おめでとう!

ストリートダンス研究会



一年生だけで発足

部員は男子5人、女子5人の合計10人で、部員全員が一年生という小規模ながらも明るく和気藹々とした雰囲気のある部です。

水、木、金曜日に石井記念体育館サブアリーナにて練習しています。部長の杉野亮さん(情報デザイン学科 メディアデザイン専攻1年)は「人生は妥協の連続」と称して、双方の意見が対立している場合に譲り合う事が重要と考えています。

そんな杉野さんは、自分の手を怪我しているにもかかわらず、ダンスへの情熱を捨てられなくて、この部を立ち上げたそうです。

彼らにとって大学祭に出るのは目的の一つですが、自分たちのダンスを通して大同大学の評判を良くする事に繋げようと考えています。

この部では、皆が楽しく踊る事が一番大切なので、初心者でも経験者でも大歓迎です。そして、ダンス経験者も居るので互いに教えあひながら協力しています。興味がある方は、活動日にサブアリーナへ来て話しかけてください。



モーターサイクルスポーツクラブ

伝統のビッグイベント「ライディングスクール」

5月31日(日)に緑ヶ丘自動車学校で、ライディングスクールを行いました。

ライディングスクールとは、大学外の一般の参加者も募集して、二輪車の安全運転技能の向上、事故防止、地域貢献を目標として一日参加者の方楽しんでいただくための安全運転講習会です。今年は午前中が雨天だったため、白バイ隊員の方は来られませんでした。あいにくの天気にもかかわらず、スタッフ含め総勢100人が集まりました。

今年で27回目となり、僕たちが生まれて来る前から続いている伝統ある部活のビッグイベントなので、春休みから準備を進めてきました。

顧問の坂倉守昭教授(ロボティクス学科)や監督の大腸崇浩さん(経理室)のご指導の下、前回の企画を頼り、人脈を頼りにしましたが、社会人を相手に物事を企画して、進行するのは僕にとって初めての事でとても苦労しました。アポをとり打ち合わせに向かったり、企画書をつくらしたり、協賛を集めたり、雑誌の方に原稿を送ったりと大忙しで、また今年も人員不足や、大学の夜間使用制限も



あり、例年のように作業が進められず心残りもありました。

終わってみて、今思う事は、「よかったな」という思いが一番です。参加者の方やスタッフさんに「今年もよかったよ」とか「おつかれさん」などと声をかけてもらい、上手いかわなくて、周りが見えなくなり、苛立った事も多々あったけど、部活に入っていない大学生が経験出来ないようなこの企画に、モーターサイクルスポーツ部に入り携われたことを嬉しく思います。また大勢の人に協力してもらい、形に出来たのだと思います。感謝しています。

今後の人生に部員一堂この経験を生かしていければ、もっといいと考えております。

来年は、今年よりも一層素敵になると期待して次の代に託します。来年もたくさんのご参加お待ちしております。

部長 稲森將太(機械工学科 機械工学専攻3年)

自動車部

全中部学生ジムカーナ選手権大会で個人・団体、W優勝!!

5月31日(日)、岐阜県のダイナランドスキー場特設会場で全中部学生ジムカーナ選手権大会が開催された。

部を代表する3人のドライバー、保田久志君(機械工学科 機械工学専攻4年)・小澤博司君(都市環境デザイン学科3年)・鈴木太良君(機械工学科 先端機械工学専攻3年)が出場。各2回ずつ走行し、短い走行タイムの合計で勝敗を争う。25チームがエントリーしたなか、彼らは見事団体優勝。8月に開催される全日本学生ジムカーナ選手権大会の出場権を2年ぶりに勝ち取った。実は前回の全国大会、エントリーミスで出場することができなかった。ゆえに今回の

全国大会に向けてのモチベーションは半端ない。勿論、平成11年以來の全国制覇を目指している。

また、保田君は、ナント個人優勝にも輝いた。おめでとう!



トコトン先生！ 大活躍！

■ 澤岡 昭 学長 中日新聞に連載、始まる。 『宇宙は手の届くところに』

国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」の利用計画に30年前から携わっている澤岡学長が、宇宙開発にかかわる夢のある話や星に情熱を掲げた人たちのエピソードをつづる、「宇宙は手の届くところに」の連載が、6月25日(木)からスタートした。

第1回目、ミッション1の今回は「宇宙実験棟『きぼう』の話」。

宇宙は遠い世界で自分とは無縁と感じている人のために、宇宙を少しでも身近に感じられる話を始めましょう。国内で感染が拡大した新型インフルエンザの治療薬が宇宙で開発されるかもしれないという夢のある話です。…から始まる。

連載は、1年間・毎月第4木曜日に掲載される。



ミッション1 宇宙実験棟「きぼう」の話

宇宙は手の届くところに

インフル万能薬に挑戦

無重力が高品質結晶生む

中日新聞 (2009年6月25日)

東海ラジオ 「小島一宏のモーニングあいランド」に出演

6月12日(金)、東海ラジオ「小島一宏のモーニングあいランド」に本学学長でJAXA技術参与でもある澤岡学長が出演した。

6月11日朝、自ら月に落下するという最終ミッションを終了し、予定の観測期間を終えた月観測衛星「かぐや」。その1年半におよぶ観測の結果や功績などについて、また、打ち上げ予定の国際宇宙ステーション (ISS) の日本実験棟「きぼう」船外実験プラットフォームを搭載したスペースシャトル「エンデバー」に対する期待などを話した。



■ 小野宗憲 特任教員 (ロボティクス学科)

日本塑性加工学会賞 功労賞を受賞



小野特任教員の長年にわたる学会活動、塑性加工分野の研究、そして教育における貢献。そのすべてが、社団法人日本塑性加工学会に認められ、5月29日(金)、日本塑性加工学会賞 功労賞を受けました。

■ 鈴木桂輔 准教授 (機械工学科 機械工学専攻) 「安全運転管理者講習会」で講演



5月26日(火)、田原市文化会館で開かれた(社)愛知県安全運転管理協議会主催の「安全運転管理者講習会」で鈴木准教授が「交通安全に関する講演を行った。昨年度も各地で開かれた同様の講習会にゲストスピーカーとして招かれ講演している鈴木准教授。今回は、「愛知県の交通事故の現状と事故低減の対策」と題し、およそ250人の聴講者に講演した。



トコトン先生
大活躍!

■ 堀 美知郎 教授 (機械工学科 先端機械工学専攻)

元気がミエる 産業展'09
「燃料電池セミナー in 三重」で講演

6月12日(金)、13日(土)、四日市ドームに、およそ350の中小企業等出展ブースと両日合計およそ18,000人の来場者が集まった。

このイベントは、三重県内の中小企業が一堂に会し、企業の持つ技術や製品の展示・実演・

即売や個別商談会などにより新たな取引拡大と知名度アップにつなげるために開催されたもの。

このイベントのメインステージで12日、「燃料電池セミナー in 三重」が開かれ、堀教授が「地球温暖化問題と次世代燃料電池の技術開発の行方」と題して、講演した。

三重県四日市市出身の堀教授。地元の話も交えて講演を展開。

最後に本学燃料電池研究センターの発電評価装置を紹介し、「ここを拠点に自動車だけでなく、家庭用においても、実用化に向けて貢献していきたい」と力強く話した。



■ 佐藤義久 教授 (電気電子工学科)

CBCテレビ「イッポウ」に出演

4月28日(火) CBCテレビ「イッポウ」の特集コーナーに佐藤教授が出演しました。

環境意識が高まる今、クリーンなエネルギーを使った発電が重要視されています。中でも注目されているのが、太陽光発電や風力発電のように天候に左右されてしまうものではなく、既存の水をエネルギーに変えることができる「小水力発電」。しかし、なかなか導入が進

まない現状とその原因について、クリーンエネルギーが専門の佐藤教授に取材の依頼がきました。

佐藤教授は「一番の大きな問題は水利権。水には水利権があるので勝手には使えない。しかし、農業用水やマンションでの生活排水を上手く利用するなど、設置の方法やアイデア次第で大きな可能性がある」と話されました。



新刊書出版

■ 小森和武 准教授 (機械工学科 先端機械工学専攻)

『例題で学ぶ はじめての塑性力学』



「ものづくり」の加工法の一つとして注目を浴びている塑性加工。その加工技術を理解し、正しく解析を行うためには塑性力学の知識が欠かせません。本書は、豊富な例題を通じて必要な知識がわかりやすく学べ、はじめて塑性力学に触れる学生たちにも最適なやさしい入門書になっています。

本書の第5章「初等解法による鍛造・引抜き・押し出しの解析」、第6章「有限要素法入門」の後半を小森准教授が執筆しています。

著者：(社)日本塑性加工学会(編)
出版社：森北出版
発行日：2009年5月20日
定価：2,520円(税込)

■ 青山正治 教授 (機械工学科 機械工学専攻)
井上孝司 教授 (機械工学科 機械工学専攻)『基礎からの
材料加工法』

最近の製造業の技術力は、ハードとソフトの両技術を基盤に最先端の製造技術を維持・発展させています。その土台となっているのが、「ものづくり」にかかわる高度な加工技術と、これを可能にする機械技術。そして、この「ものづくり」技術が材料加工です。

本書の「第3章 切削加工」、「第4章 研削加工」を井上教授、「第7章 鋳造」、「第8章 溶接と切断」を青山教授が執筆。最近の学生事情の多様化に考慮して、初学者向けに材料の加工法をわかりやすく解説しており、本学の学生は教科書として使用しています。

出版社：日新出版
発行日：2009年4月30日
定価：2,730円(税込)



トコトン先生!
大活躍!

■ 大東憲二 教授 (都市環境デザイン学科)

石原産業株の環境月間講演会で講演

6月4日(木)、石原産業株の環境月間講演会で大東教授が講演をしました。大東教授は、石原産業の「環境専門委員会」委員長を務めており、工場の土壌・地下水汚染状況の把握

に関する指導や、土壌・地下水汚染に対する浄化・措置方法の立案に関する指導などを行っています。今回は、「名古屋市における土壌・地下水汚染対策の現状」と題し、四日市工

場の工場幹部、管理職、生産、研究職従事者等およそ150人を集め、講演しました。

社土木学会中部支部主催の
「土壌・地下水汚染に関する講習会」で講演

6月9日(火)、名古屋市工業研究所で「土壌・地下水汚染に関する講習会」が開かれ、大東教授が講師として参加しました。この講習会は、(社)土木学会中部支部が主催で実施され、

今回の参加者はおよそ80人。大東教授は、「安全安心なまちづくりのための土壌・地下水汚染対策」と題し、講演しました。

■ 山内五郎 教授 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

平成20年度に引き続き、
21年度も「シーズ発掘試験」で採択

科学技術振興機構 (JST) 地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」において、山内教授が提案した「抗菌・超撥水材料の開発と応用」が、平成20年度に引き続き今年度も「シーズ発掘試験 (A: 発掘型)」として採択されました。

この事業は、各府省や大学、地方自治体、独

立行政法人、TLOなどに配置されている各種コーディネータなどが発掘した大学などの研究シーズの実用化を促してイノベーションの創出に資するとともに、コーディネータなどの活動を支援することを目的とした試験制度。本年度は、全国から7865件 (A:



7390件、B: 475件)の応募があり、選定会議において2062件 (A: 1915件、B: 147件)の新規採択課題が決定。

今後は実用化に向け、契約などの条件が整い次第、研究が開始されます。

■ 茂吉雅典 講師 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

『ぎふ児童文学(第72号)』が
岐阜新聞で紹介されました。

茂吉先生が事務局を務める「岐阜児童文学研究会」発行の『ぎふ児童文学(第72号)』が、4月11日(土)の岐阜新聞で紹介されました。

この研究会は、児童文学者の故岸武雄氏らが中心となって設立。活動は30年以上にわたり、現在でも月に一度、合評会を開き、児童文



学の創作に力を注いでいます。今回紹介された『ぎふ児童文学』は、会員たちの創作した詩や児童文学をまとめ、年に1、2回のペースで発行しているもの。茂吉先生は「子どもたちによい読み物を与えたい」という思いで創作を続けています。



岐阜新聞(2009年4月11日)

■ 水野義雄 教授 (教養部 保健体育教室)

DUP

すくすく子ども健康教室



児童と保護者に子どもの健康を考えてもらおうというイベント「第14回すくすく子ども健康教室」を6月20日(土)、本学の石井記念体育館で行った。

このイベントは年に2回、本学や大同病院などが主催して行うもので、今回はおよそ30組の親子が参加した。

参加者はまず、2階のサブアリーナでカゴメ(株)管理栄養士による野菜に関する話や、クイズを行ったあと、野菜ジュースなどを使用して

家庭でも手軽に野菜を摂取できるレシピを学んだ。

そのあと、1階のメインアリーナに移動し、幼児は風船遊びやお絵かき、小学生低学年はマット運動や道具を使った運動、高学年はトランポリンやサッカーと、年齢ごとに分かれて楽しく体を動かしていた。ここは、水野教授と本学ハンドボール部員が担当した。そして最後に、本学でもエアロピクスを教え



ている桶野先生による、親子のできるエアロピクスを行い、心地よい汗を流していた。

大学によると、このイベントは秋にも行うという。 DUP / 杉本一馬



CAFE. 9

●アップル活動

僕は2007年4月に大同工業大学に入学した。それと同時に学習支援センター(以下:アップル)の存在を知り、そこに行くことになった。アップルのあるS棟前には、いつも素振りをしている男がいて、気づいた時には、アップルでの僕の担当になってしまっていた。その“素振り男”との壮絶なる年月を一部紹介します。

アップルに通い始めて最初の頃は勉強するのが中心だった。(悪さをした時には「お仕置き」もありましたが……)しかし、1年後期の期末試験が終わったその日、(まだ1度もやっていないにもかかわらず)『アップル名物 焼き芋大会』のため“素振り男”は子分達(担当の学生)を呼び集めた。予想以上にその大会は盛り上がり、それを皮切りに次から次へと「アップル名物」の活動へと



引っ張り出されるはめになった。

何の部活動もやっていなかった僕にとって、アップルでの活動は一見地獄への道かと思えたが、考え方によっては天国への階段を昇っているようにも思える。と言うのも、何とその“素振り男”の正体は、ギターの世界の演奏家で、普段のアップルでの勉強に加えて今では無理を言ってもその素晴らしい演奏技術を教えてもらっている。一見遊んでばかりいるように見えるが、実は立派な人だったのである。少なくともアップルは勉強をするだけの所ではないようだ。

季節は春になり、晴れて3年生になった。アップル活動は途切れることなく続き、今度はジャガイモを育てるようになった。春休み中に畑に植えたジャガイモも、最初はもうダメなんじゃないか?って思っていたが、これがなかなか元気に育っている!(葉っぱが黄色くなっているのもあったが気にしない)さすがジャガイモ、何もせずとも勝手に育ってくれる!そんなこんなで事務部長の大矢さんに丸め込まれて(!)ゴーヤと朝顔を育てることになった。まあ自分はゴーヤで大矢さんとビールを飲めればそれでいいです(笑)。

全て順調に進んでいたと思いきや、5月

金本直哉 (情報システム学科 情報ネットワーク専攻3年)



金本君(左下) 名球会 高木守道さんもアップル活動に参加

の学校祭で悲しくもジャガイモは踏まれて、無残にもぐちゃぐちゃになっていた。もうダメだと思いつつも一握りの願いを込めてジャガイモを掘り返したら……なんと!ちっちゃいかわいいジャガイモができていました。それを蒸かしてもらい、塩を振って食べたところ、すごく甘い!!アップル活動に理解を示し色々協力してくれる学生室や入試・広報室の方々にも試食してもらったら好評でした。こんな小さなジャガイモにも栄養が凝縮されているのかな?まさに怪我の功名でした。

今は、同じところにサツマイモを植えています。今度ではかくなってほしいです。「焼き芋大会」のためにも……

大学はやっぱ楽しみなあかんね!

トコトン先生!
大活躍!

■ 定国伸吾 講師 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

アートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム
2009「汗かくメディア」で入賞

愛知県児童総合センター主催のアートと遊びと子どもをつなぐメディアプログラム2009「汗かくメディア」で定国先生の作品「かみひこうきぐも」が入賞しました。

このプログラムは、急速に増え続ける新しいデジタルメディアの中、子どもたちをキーボードやディスプレイに貼り付けてしまうだけではなく、そこから開放し、汗をかきながらからだや五感で現実の新しい世界ともかかわっていきけるような“遊び”のきっかけとなるメディアア

ートを期待して企画されたもの。全国に公募し、52作品が寄せられました。

入賞した定国先生の作品「かみひこうきぐも」は、子どもたちが折った色とりどりの紙飛行機を指定の空間に飛ばすと、紙飛行機の軌跡にそって飛行機雲や紙飛行機の色に対応したエフェクトがスクリーンに映し出される。それは時間経過によって変化し、一定時間が経過すると軌跡は薄くなって消えてしまうというもの。この作品は、手を使って紙飛行機を折り、



からだを使って紙飛行機を飛ばすという“アナログ”な遊びと、ビデオカメラからの入力を解析してプロジェクターから解析結果に応じたエフェクトが出力されるという“デジタル”な結果の融合した遊びになっています。

「かみひこうきぐも」を含む入賞4作品は、2009年9月12日(土)～27日(日)の間、愛知県児童総合センターにて発表されます。たくさん子どもたちが楽しんでくれることを期待しています。

■ 井藤隆志 准教授 (情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

本とデザインを愛する人へ
「本のための小さな家具展」に出展

3月28日(土)から4月17日(金)、有隣堂アトレ恵比寿店(東京都)で、また4月20日(月)から6月30日(火)はリゾナーレBook&Caféで開催された「本のための小さな家具展」に、井藤准教授の作品「Book-house」が展示されました。

思えば増える一方の「本」。本収納は多くの人が悩むポイントです。自分の好きな装丁の

本をディスプレイしたいという願いは多いはず。本展は、そんな本やデザインをこよなく愛する人たちに、おすすめの展覧会です。

会場は、インテリアショップでも雑貨店でもない、本屋。本のための家具だから、当然と言えば当然ですが、その場に行ってみると、とても新鮮な印象を受ける。

井藤准教授を含めた、19人のクリエイターによる、さまざまな「本のための小さな家具」が登場。そのどれもが本に対する愛情と、暮らしの場を豊かにしたいと

巣箱のような本箱「Book-house」



いう優しい気持ちが見え隠れする、素敵な作品達です。



■ 鷺見哲也 准教授 (都市環境デザイン学科)

公開講座「高潮、ゲリラ豪雨と向かい合う私たちの“まち”」



6月30日(火)、名古屋市南生涯学習センターで、公開講座「高潮、ゲリラ豪雨と向かい合う私たちの“まち”」を開講。講師は鷺見准教授が務め、30人を超える受講生が集まりました。

伊勢湾台風から50年経つ今、豪雨の実態や被害の状況を知り、風水害に備え、各家庭でできる心構えや準備について学んでもらう、この講座。

南区・港区周辺の「人口分布と地形データ」をスクリーンで説明。標高が低い土地ほど人口が密集している。このショッキングな事実を受け止めるよう、訴えかけました。また、「住宅構造と世帯データ」からは、伊勢湾台風当時と違って、今は鉄筋コンクリート3階建ての建物が、この地域は多く、一時避難できるところはたくさんあることも認識するよう、話しました。

まとめとして、鷺見准教授は地元地域から

参加している受講生に、「自分たちは災害について、リスクがある環境で生活していることを頭に入れる、意識する。これが災害と向かい合うということなのです。」と呼びかけました。

この講座の様子は、7月3日(金)の中日新聞で紹介されました。



トコトン先生
大活躍!

■ 梅田礼子 准教授 (教養部 外国語教室)

公開講座「ドラマで楽しむ英文法」

昨年に引き続き、今年も開講「ドラマで楽しむ英文法」。敬遠しがちな「英文法」をドラマや歌を用いて楽しく学ぶこの講座、夜間開講にもかかわらず、55人の受講生が集まりました。実際の使用例を「目で見て、耳で聞いて、心で笑って」理解する、この講座スタイルが、昨年の受講生にウケ、今回の開催となりました。

6月15日(月)、テーマは前置詞。アメリカのTVドラマ「Friends」、歌「Without You」「THE Rose」、そして梅田准教授の「トーク」が、この講座の教材。笑顔の絶えない時間が展開されました。

講座終了後は、昨年も参加したという受講生と今日の講座について、談笑。梅田准教授に何うと、昨年よりメールをし合っている仲だとか。

この講座は、2日間の開講。6月22日(月)は関係代名詞whatについて、楽しく学んでいた。1回目の講座で教材にしたジャズの曲名で、ほかに意識されているものリストを作って渡してくれた受講生がいました。

梅田准教授自身も非常に楽しくって、嬉しい講座になったようです。



イラスト入りのにぎやかなホワイトボード



神保教授



堀尾教授



山内教授

■ 神保睦子 教授 (電気電子工学科)

堀尾吉巳 教授 (電気電子工学科)

山内五郎 教授 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

「第2回東海ニューテクノフォーラム」で発表

(独)科学技術振興機構JSTイノベーションプラザ主催の「第2回東海ニューテクノフォーラム」が6月15日(月)、名古屋銀行協会で開かれました。このフォーラムは、東海3県の各大学が推薦する独自技術・新技術を、コーディネータが企業ニーズを踏まえて説明し、大学と企業との交流を図る場として開催しているもの。大学、企業、官公庁などから発表者も含め116人が集まりました。

今回の主テーマは「表面・界面科学と産業応用」ということで、本学からは神保教授(「表面波プラズマを用いた強磁性金属内包カーボンナノカプセルの合成と応用」)、堀尾教授(「反射電子回折によるその場表面構造解析法」)、山内教授(「可視光応答型光触媒を添加した超撥水抗菌防汚材料」)の3人が発表をしました。

新刊書出版

■ 大石弥幸 教授 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

『例題で学ぶ はじめてのC言語』



本書は、初めてC言語でプログラミングを学ぶ人のために書かれています。

実際の授業の中で、学生が困ったり躓いたりしたことをヒントに書かれているので、学生にとっては、より理解しやすいテキストとなっています。多くの例題を使って

解説し、説明の中にも使い方の例をたくさん入れています。C言語の全範囲を網羅してはいませんが、これだけ知っていれば、まず困ることはありません。

出版社：ムイスリ出版(株)
発行日：2009年4月4日
定 価：2,100円(税込)



■ 田中秀和 教授 (情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

『技術者倫理 法と倫理のガイドライン』



技術倫理の企業人向けテキスト。大学工学部においては必須となっている技術倫理であるが、企業の現役技術者にはそれを履修していない人も多く、一方で様々な倫理的問題に対処を求められる状況が多々発生しています。本書は、この分野におけ

る日本の第一人者杉本泰治氏らと田中教授が共著。企業で実務に従事する人を対象に、事故責任の法の仕組み、技術者の倫理、技術者倫理の役割などについて読みやすく、コンパクトにまとめられています。

出版社：丸善
発行日：2009年3月
定 価：1,575円(税込)



新任教員
紹介



機械工学科
教授 野田 卓

4月より新生生と同時に着任しました野田です。3月まで豊田中央研究所に勤務し、主にエンジンのトライボロジーの研究をしてきました。この分野は摩擦、摩耗、潤滑に関連し、機械、材料、化学などにまたがる領域で、設計、材料、油に係わる色々な知識が必要とされます。特にピストン、軸受を対象にした設計的な研究を長くしてきましたが、まだま

だ未知の問題が多くあります。講義は機械製図と機械設計Iを担当しています。前者は、将来CADをやる上でぜひとも理解すべき科目であり、後者は多くの基本技術に基づく応用的な科目で、どうしたら学生の皆さんに十分理解・習得してもらえるかを手探りしながら授業をしています。

自動車为例にとりますと、近い将

来、現ガソリン・ディーゼルエンジンの車両から、ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車などへの大幅な変化が起ころうとしています。このような変革期において、社会人になってすぐ役に立つ基本的な技術の習得や「ものづくり」の楽しさの体験をぜひしていただきたく、皆さんと一緒に頑張りたいと思っています。



機械工学科
准教授 加藤光廣

4月1日に機械工学科に赴任しました加藤です。講義では機械設計学と機械製図を担当しています。将来のエンジニアの卵のピカピカの1年生には機械製図の基礎に慣れ、かつ上達してもらうために色々工夫しているこのごろです。また2年生の諸君には機械を製作するにはその基礎

としての機械設計学の重要性を理解してもらおうと講義を進めています。

赴任する前日まで他大学で振動関係の研究をやっていました。近年、機械、機器、構造物などの高速化、軽量化、高性能化などに伴い、これらの動的設計、振動制御などを行う際、系を、有限変形を考慮に入れた非線形

系として取り扱うことは重要な課題だと考え、今まで各種の非線形振動に関する研究をやってきました。

大同大学にはすでに10年近い非常勤講師の経験があり、これを生かして今後とも、教育に情熱をさげたいと思っています。



情報システム学科
教授 上田 浩次

情報学部情報システム学科に就任しました上田浩次です。私は、本学にお世話になる直前まで、企業に28年間勤務しておりました。この間、担当しておりました技術開発の内容は、「ITS（高度道路交通システム）」にかかわる新しいセンサを開発して、ドライバーが安心、安全、快適に運転するための情報を提供することに役

立てることを目指していました。例えば、高速道路の駐車場を撮影した映像から駐車車両台数を数え、駐車場の満空状況を事前にドライバーへ情報提供するシステムなどは分かりやすい例であると思います。このような内容も含めまして、センサから得た信号を処理し、目的とする情報を抽出する技術の研究・開発を基本

として、その情報が付加価値を生み出すような内容に今後も取り組んで行きたいと考えています。

今後、優秀な諸先輩教員、職員の皆様方にご指導いただきながら、社会が求める技術者をこの大同大学から送り出せればと思っています。あわせて、大同大学の発展に寄与できるよう努力していきたいと思っています。

新刊書出版

■渡邊慎一 准教授 (建築学科)

『建築学テキスト 建築環境工学 環境のとらえ方と作り方を学ぶ』



暮らしの中で環境配慮が求められている現在、つくられた建築の安全性、健康性、住み心地の良さといったものをどう創造していくかは、大変重要な課題です。本書では、人間と環境との関わりから、光、熱、空気、音、都市

環境、建築デザインとの接点、環境の心理まで、健康で快適な建築を設計するための理論とその手法を幅広く学べるようになっていきます。他大学の教授ら9人と共著。渡邊准教授は、第10章「建築の外部環境計画」を担当しています。

出版社：学芸出版社
発行日：2009年3月30日
定 価：3,150円(税込)



■茂吉雅典 講師 (情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)



『水燃えて輝く 一木曾川の水力発電開発を中心に』

数十年前に長良川発電所へ行って以来、電力を中心とした産業遺産めぐりを楽しみ、地元でも知られていない先人の偉業を調べてきた茂吉先生。この本では、中部の水力発電開発の歴史や苦勞、さまざまなダムや橋、忘れられつつある産業遺産などについて記述し、「多くの人に楽しく読んでいただきたい。近くの公園へ行くような気分で、産業遺産の散歩とその歴史を楽しんでほしい」と話しています。

この本の出版については、4月24日金の岐阜新聞でも紹介されました。

出版社：岐阜新聞社
発行日：2009年3月25日
定 価：1,800円(税込)



DUP

創立70周年記念講演

山口良治氏 「熱き感動を求めて」

6月27日(土)、元日本代表のラグビー選手で、ドラマ『スクールウォーズ』のモデル、現在は日本ラグビー協会評議員として活躍されている山口良治先生が「熱き感動を求めて」を題材に講演した。

高校一年のとき先輩に誘われ、怖くて断り



切れずになんとなく入ったのが、ラグビー部。途中何度もくじけそうになったが、周りの皆も苦しい中練習している事に気が付き、自分もより上を目指して頑張れた。

指導者の立場になってからは、やる気のないう生徒相手にどう向き合っていくのかを生徒達と共に生活していく間に学んだ。

たとえ先生や親に反抗している子でも、人から期待されて嬉しくない子はいない。だからまず、生徒にラグビーをやる気にさせることから始まった。生徒とまっすぐ向き合い、ちょっとずつラグビーと触れ合うきっかけを作っていた。

その後試合をして敗北を味わっ



て初めて、一見平気そうな顔をしている子も悔しい気持ちを持っていることを知った。その悔しさ無くして人は強くなるうとは思わないだろう。

山口先生は生徒達とラグビーを通して自分自身が歩んできた人生を話し、今の学生に何が必要なのかを熱く伝えた。それは「強い志を持つこと」。

今回の講演は山口先生がラグビーと出会い、生徒と出会い、感じた事、考えた事、学んだ事を聞くことが出来た。その結果、今後の自分たちの未来を改めて考え直す良い機会となった。

DUP / 長谷部三彩子・船場彩華

大同大学応援歌誕生、披露。

自分自身、また仲間の士気を高める歌。学生時代を想い出す歌。そして母校を大切に想い続ける歌…。そんな歌、大同大学応援歌がこのほど誕生し、学園創立70周年記念講演会終了後の会場で初披露されました。

作詞 川戸和英教授(メディアデザイン専攻)、作曲 片岡智幸さん(学生室長/吹奏楽顧問)、編曲 塚本浩さん(1989年 応用電子工学科卒業/吹奏楽団 初代団長)によって制作された

応援歌。大槻一記雄くん(機械工学科 先端機械工学専攻4年/バレーボール部)のエールと吹奏楽団の演奏、豊田市民合唱団員の3人の歌で、200人を超える学生・教職員に届けられました。

翌日、東京で開かれた「同窓会 関東支部 総会」で澤岡昭学長から応援歌誕生が報告され、同窓会員から歓迎されました。

応援歌誕生については、次号以降で紹介予定。



人事

●異動【大学】

(事務職員) (H21.5.1)

佐藤 匠(大学事務部 図書館室 主任部員)

編集後記

創立70周年記念講演の講師を、私とラグビーを会わせてくれた、あの『スクールウォーズ』のモデル 山口良治先生が務めた。時折涙をハンカチでぬぐいながら、話される先生を目の前にして、私も泣いた。講演が終わり、少し先生と話すチャンスがあった。思っていたこと、伝えたかったことの半分も話せなかったが、嬉しかった。また握手していただいた先生の手。分厚く、力強かった。ラグビーを今まで続けてきたおかげで、大切な友達、そしてラグビー部の学生と出会えた。ラグビーはこれからも続けていく。またたくさんの学生と出会えるはず。私は「卒業生と現役学生が集える居場所であり続けたい」、そう思っている。



(写真) ラグビー部キャプテン 及川大樹君 (機械工学科 機械工学専攻4年)